

君津市公民館等再整備基本計画住民説明会(小櫃地区)

1. 実施概要

日 時: 令和6年9月24日(火) 午後6時30分から午後8時00分

会 場: 小櫃公民館 講堂

参加者: 36名

出席者:

君津市			
市民生活部			村越部長
		地域づくり課	正源課長、金網係長
		国保年金課	開田次長兼課長
教育委員会	教育部		丸部長
		生涯学習文化課	平野主幹
	教育機関	中央図書館	小野寺副館長
企画政策部		公共施設マネジメント課	君島課長
福祉部		高齢者支援課	安藤課長
NiX JAPAN株式会社(委託事業者)			

配布資料:

- ・ 君津市公民館再整備基本計画について(小櫃地区)説明資料
- ・ 君津市公民館等再整備基本計画【概要版】(小櫃地区)
- ・ 感想シート

2. 議事概要

(1) 開会

市民生活部 村越部長から開会挨拶

(2) 君津市公民館等再整備基本計画について

事務局から説明

(3) 質疑応答

参加者: 令和6年3月に公表された基本計画のレイアウトイメージ図では、周南、小糸、小櫃各公民館の再整備後の規模が同程度となっている。現状施設や地域の特性を考慮されていないように見えるが、とりあえずの図なのか、それとも現状規模は考慮されないものになるのか、整備基準を知りたい。

事務局: 基本計画に掲載されているレイアウトイメージ図は、諸室の機能などを考慮して単純に諸室の配置をイメージしたとりあえずの整備図である。
各館の既存規模や地域性は勘案することとしており、規模としては現状面積の20%減程度と考えている。

参加者: イメージ写真として掲載している事例の延床面積を記載しないと、イメージが一人歩きする懸念がある。イメージ写真として掲載した事例については、基礎データを示すべきと考える。イメージ写真で使用されている金田地域交流センターの面積は何㎡か。

事務局: 金田地域交流センターの面積は手元に資料がなくお答えできない。
イメージ写真として掲載している事例は、概ね再整備後の公民館と同程度の

規模である。具体的な再整備後の規模は、今後庁内でも検討することとなっている。

参加者：令和5年12月に自治会連絡協議会ら地域の5団体からの要望書を提出しているが、回答を伺いたい。

事務局：ご提出いただいた要望書を踏まえ、地域の方々と対話を行いながら今後検討を進めていきたい。要望書の内容は、今後の検討事項として取り扱う。

参加者：基本計画を策定する過程の中でアンケート調査やワークショップを開催し、市民意見の聴取を行ったと思うが、現段階のイメージで、各諸室の機能や規模に対して以前伝えた市民の意見がどのように反映されているのか。要望からイメージ図にどのように繋がっていくのか、その過程を提示して欲しい。どのように変わっていくのか市がまとめていると思うので教えて欲しい。

事務局：子どもの居場所・遊び場や交流機能の強化に関するものはロビーで小さな子供の遊び場や図書コーナーなどを設置することで対応する予定である。使用頻度の高くない諸室は削減し、必要な諸室を残して各諸室の利用率を上げる方向性で検討している。使用頻度が高くないものの、調理実習室や和室を残してほしいという要望に対しては、スケルトンインフィル構造として多用途で使用可能な諸室の設置を検討している。規模として、和室は70㎡、調理実習室は55㎡、研修室は現状より少し広い80㎡程度としている。管理人室などの使用頻度の低い部屋は削減する方向で検討を進めている。ロビーは誰もが気軽に立ち寄り、高齢者から子どもまでの交流が生まれる展開を考えている。

事務局：講堂は、現在278㎡となっている。講堂は、一番稼働率が高く、稼働率の高い時間帯で50%程度となっている。和室は現況では73㎡、基本計画では70㎡程度となり、茶室はこの中に含まれる。調理実習室が現況70㎡、計画が55㎡。第一会議室は40㎡、講義室は52.5㎡、研修室は64㎡で、諸室としては数が減るが、公民館の利用率は、会議室は午後の時間帯が一番高く30%、調理室は午前中が一番高く30%となっている。現在の利用率や利用人数を勘案した規模としている。

参加者：コロナ禍により、ここ3～4年の利用率が下がっていることについて考慮されているのか。また、提示された規模を確認すると、全体計算すると延床面積が綺麗に約20%減となる。削減を前提として検討を進めているのではないか。

事務局：諸室の機能は、市民の意見も伺いながら検討を進めてきている。今後、地域の意見も踏まえて、今後継続的に検討を進めたい。

参加者：地域住民との対話の期間が事業スケジュールには位置付けられていない。令和6年度に実施している導入可能性調査の中で対話を行う予定か。

事務局：3月に策定した基本計画時点では、今年度は民間活力の導入可能性について事業手法も含めて検討することとしているが、併せて、小櫃地区の特性・特色に応じた施設整備のため、対話を重ねながら進めていきたいと思っている。

参加者：令和6年度以降のスケジュールが漠然としているので、具体的なスケジュールを示して良いのではないかと。地域住民との対話活動と、民活とは異なるものなので、きちんと分けてスケジュールの説明をして欲しい。

事務局：民間活力の導入可能性調査で採用する事業手法によって今後のスケジュールが具体的になる見込みである。民間活力に関する検討と市民の方々との対話は、それぞれ並行して実施する予定である。

参加者：ワークショップが3回あると言っていたのに2回になり、2回目は子どもの送迎時間と重なり参加しにくく、次は参加したいと思っていたのに3回目がなくなってしまうということがあったため、あと何回こういう場があるのだろうか？と不安になる。「突然話し合いが終わって、内容は決まりました」と言われるのではないかと不安に思うので、今後も対話の機会があるのか教えて欲しい。時間帯によっては、出席が難しくなってしまう方々もいるので、説明会等の開催時間等について工夫をしていただきたい。

事務局：今回1回だけで終わりということではなく、対話の場は今後も継続的に設ける予定である時期や開催方法などは明言できないが、いずれにせよ皆さんの意見を伺える場を作りたいと考えている。開催時間等のご意見を踏まえて検討したい。

参加者：10年前に小櫃へ引っ越してきて、最近公民館を使い始めた。コロナが明けてこれから色々な教室が開かれていくのかなと楽しみにしていたら、小さくなると言われてびっくりしている。災害があったときに何世帯、何人ぐらいが避難できるのか？
能登の地震では公民館にはもう入れませんということがあったようなので、検討をして欲しい。

事務局：避難所としての収容人数は把握できていないが、防災機能の確保は方針としているので公民館における防災機能の充実については担当部署と連携して機能確保に向けて検討していきたい。

参加者：地球に優しい環境配慮という項目について、今年の夏に暑さからの避難場所として公民館が提供されたがとても暑かった。2回目のワークショップで災害時の寒さなどを考慮して、断熱等級7を希望した。住宅では導入コストは10年で消化できるそうなので、地球温暖化のことを考えたら、最初お金がかかると思うが断熱をしっかりして欲しい。目に見えないところなので、書かれていないとわからない。また、断熱と同様に夏の日差しを遮る長い庇も希望に書いた、文化祭の時などは長い庇がテント代わりになる。その意見が反映されていないのは残念に感じた。

事務局：基本計画では細かい仕様まで書ける段階ではないので書いていないが、ご意

見の内容は設計時に検討する事項であるので参考とさせていただきたい。

参加者：現状閉鎖的な図書室の扱いとトイレがいつもワークショップで議題に上るが図書室は明るく皆が集まるロビーに併設ということで良いと思う。
トイレの男女別の数等が決まっていたら教えてほしい。現況では男性トイレには洋式トイレが0基、女性は1基だけとなっているがこのままなのか。

事務局：トイレの数は現状と同数を想定しているが、洋式化や狭さに対するご意見が多いため、今後検討する。

参加者：公民館の再整備において、小櫃地区の将来的な人口減少を見据えた検討をしているのか地域特性が3つ挙げられているが、公民館をその拠点として整備が計画されているのか。もしそのように整備が進んで、バイパス沿いにフィットネスジムや交流できる場所が建ったとしたら、公民館はそんなに必要ではなくなる。君津の街中に出れば文化ホールもある、図書館もある。車で移動が必要かもしれませんが、小櫃よりもずっと利便性が高いところがある中で小櫃の公民館整備をどう考えているのか、地域の姿を市が考えてくれていることが前提でないと、この公民館の整備が本当に小櫃のことを考えてくれているのか、どんどん規模が縮小されていくのではないかと他の皆さんが心配されているように不安に思う。市はどう考えているのか。

事務局：「君津市総合計画」における人口推計値などは想定している。現状の面積や使用率を勘案して、他計画との整合性を図りつつ検討を行っている。地域特性なども踏まえつつ整備を進めていくつもりではあるが、色々なご意見を聞きつつ検討を進めていく。

参加者：事務室など行政窓口機能の規模が適正かも含めて、再度検討していただきたい。イメージ図では、行政施設の中に公民館の施設が入るようなイメージ。例えば久留里の交流センターをイメージするともっと広い。70㎡では職員のロッカーも置けない。そういうことを踏まえて再度ご検討をいただきたい。

事務局：ご意見ありがとうございます。

参加者：避難所等の災害拠点とするなら、トイレは小櫃中学校のように別棟の方が良いと個人的に考えている。12月に提出した要望書への回答も含めて再度検討していただき、次回以降の説明会にもう少し実のある回答を期待する。

事務局：検討を進めさせていただく。

参加者：再整備に向けて、地域としてまだ行政とキャッチボールがしたい。今後の対話の場については、開催時間や回数を工夫してほしい、日時確定で一方向的に通知され「やりましたよ」と言われても困る、これはワークショップでも出ていた意見だったと思う。そこに来られない方は意見を言うことができないので工夫をして欲しい。子育て中の方や高齢の方などが参加しやすい時間帯などを検討してほしい。
今回の説明会の開催連絡についても、回覧板だけではなく、メールなどのソ

ーシャルメディアも活用して告知していただき、お互いに声かけもしてこれだけの人数が参加できたので、今後もっとこのような工夫していけたら、地域として意見をまとめられるし、公民館の新しい利用者を増やすことにつながるのではないかと考えている。

事務局：ありがとうございます。

参加者：地区内の公共施設の再編整理において、老人憩いの家すえよしも複合化対象となっているが、今利用していてとてもいい環境であり、入浴機能も含めて今後どのような機能になるのか教えてほしい。

事務局：老人憩いの家すえよしは、憩いの場としての機能は、新たな公民館に複合化して確保する。

入浴機能は複合化せず、令和3年3月に策定された「君津市保健・福祉施設個別施設計画」では、老人憩いの家すえよしは、令和12年度までに施設の方角性として転用と位置付けられている。利用者が少数で固定化されていることや、維持管理費を要することにより入浴機能は廃止される計画となっている。現在、残留塩素計の故障と水漏れにより施設閉館している状況。

参加者：老人憩いの家すえよしの当初の設置経緯や理念はお年寄りにお風呂に入りに来てもらいそこで交流することで地元の成長につながるだろうという思いだったと思う。利用者が減ったから無くすというのは、当初の理念に合致していないと思われる。現状に至るまでに市は高齢者が集まるような施策をやってきたのかを踏まえて、説明をしていただきたい。

事務局：確かに「老人憩いの場」として当時温浴施設を作ったという経緯は承知している。あくまで入浴設備が大事なのではなく、高齢者の憩いの場であるということを中心として設定されていきました。ご指摘の通り目的が達成されておらず利用者が少数で固定化されている現状があるため、新しい公民館にそう言った機能を集約する方向で計画をしている状況。

参加者：小櫃地区から入浴施設はなくなるということなのは、非常に残念。現在、1ヶ月近く休館していて修理が進まないのは計画があるからなのか。

事務局：専門業者に確認してもらったが水漏れ箇所の特定ができず、修理できない状況で休館が続いている状況。

参加者：入浴機能の廃止は決定事項か。

事務局：あくまで、個別施設計画に位置付けられているものが現状である。

参加者：「憩い」は後からついたもので、当初はお風呂が前提でメインだった、設置経緯を十分に勘案してほしい。周辺整備も含めた新たな小櫃の拠点づくりを進めるということで、多目的な広場についても要望を出しているので検討して欲しい。

個人がいろいろ言ってもまとまりにくい、小櫃地区住民の意見を公民館で

集約をして要望し、また話し合いの機会を設けて欲しい。予算の制限もある
と思うがもっと考えて欲しい。

(4) 閉会

市民生活部 村越部長から閉会挨拶

—以上—